

子どもたちの痛いほど真摯な瞳、言葉、
そして強い思いに、心が揺さぶられる。

これは教育？ 素晴らしい授業!?
賛否両論を巻き起こした感動の実話、
ついに映画化!

1990年、大阪の小学校で新任教師がはじめた実践教育が日本中に波紋を投じた。それは、“ブタを飼って、育てた後、自分たちで食べる”という驚くべき授業だった。「Pちゃん」と名づけたブタを育てた後、子どもたちの卒業を控えて、Pちゃんの処遇を巡った大論争が展開される。しかし、問題はそこで終わらなかった。その後、このエピソードを追ったドキュメンタリーが1993年にテレビ放送され、ギャラクシー賞奨励賞、動物愛護映画コンクール内閣総理大臣賞を受賞し大きな反響を呼んだ。“いのち”や“教育”のあり方が問われている今だからこそ、映画を通して、この授業を体感してほしい。

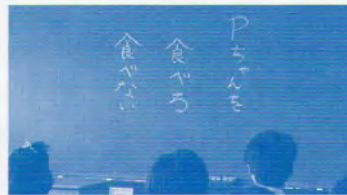
物語の結末を知らなかった
26人の子どもたちの
リアルな感情と言葉が胸を打つ!

オーディションで選ばれた26人の子どもたちに手渡されたのは、「大人の脚本」とは違う、役名も、結末も記されていない「子どもの脚本」だった。時には議論が白熱して大粒の涙を流し、つかみ合いのケンカをしたこともあった子どもたち。物語の結末を知らないからこそ、自分の答えを見つけようと、思いや意見をカメラにぶつけるクライマックスのライブ感が見どころだ。子どもたちの純粋さを、一瞬たりとも逃さないために7台のカメラを駆使して撮影は行われた。

星先生と26人の子どもたちが出した答えとは!?

妻夫木聡主演、初の教師役に挑戦!

子どもたちと、一緒に悩みながら成長をする新任教師・星先生を演じたのは今回教師役に初挑戦の若手実力派No.1俳優・妻夫木聡。カメラが回っていない時も「星先生」と慕われ、撮影現場では子どもたちに優しく、時に厳しく「先生」として接した。妻夫木自身、子役オーディション段階からこの映画に参加



するほど、初の先生役として気合は充分。自身が感じたことや、子どもたちに伝えたいことをノートに書き留めてから撮影に挑む姿勢を見せた。そんな星先生と26



人の子どもたちを支える校長役に原田美枝子、教頭役に大杉漣、同僚教師役に田畑智子と強力な俳優たちが脇を固めている。

